

愛知県議会議員

— 自民党1期 —

神谷 和利



自民党が議員立法として提出した改正木材利用促進法が公布されました。法改正は公共建築物のみならず民間建築物を含め木材利用を促進するものです。木材利用促進には追い風が吹いています。

昭和36年1月2日生まれ。豊田市柿本町3-34。愛知県議会警察委員会委員。同産業イノベーション推進特別委員会委員。自民党愛知県第11選挙区副支部長。元豊田市議会議長。愛知県森林協会副会長。豊田市少林寺拳法協会会長。ボイスカウト豊田地区副協議会長。

木材情報の共有システムを

ここへきて世界的な木材争奪戦が起き、建築業界では輸入木材の価格高騰や調達困難の形で「ウッドショック」が波及しています。国産材の需要が増え高値が付けば林業が活性化し、山村経済が立ち直

国産材活用促進し山村経済の復活へ

まず林業従事者の問題。林業従事者は山主と契約して伐採・搬

え、梁には強度の高い米松等が使われています。これを国産材に置き換えるには、設計変更が必要です。最後に適時供給の問題。木材は事業地確保・伐採・出材から、運搬・加工・乾燥等の工

けるのはリスク管理上も重要な国策です。輸入材を国産材へ転換するには価格面だけでなく、需要に合わせた品質・規格・量の木材を安定供給する体制を整えることが必要です。それには木材生産と需要の情報を共有するシステムの導入が期待されます。

出するため、年単位で計画を立てて伐採地と面積に合わせて人員や機材を確保します。が、人員や機材の増強は一朝一夕にできません。次に木材の質の問題。最近の住宅は空間を大きくする設計が増

程を経て製品としてフレカット工場等へ供給されるまで時間がかかり、見込み生産を余儀なくされます。ウッドショックがいつまで続くか見通せませんが、食料自給率と同様に木材自給率を上

ることができません。